

平成 16 年 2 月期 第 3 四半期業績の概況（非連結）

平成 16 年 1 月 7 日

株式会社 スギ薬局

（コード番号：7649 東証第一部・名証第一部）

（URL <http://www.drug-sugi.co.jp/>）

（TEL：0566 - 73 - 6300）

代表者 代表取締役社長 杉浦広一

問合せ先 取締役管理本部長 増田泰朗

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

売上高の会計処理の方法の最近会計年度に 有 無
おける認識の方法との相違の有無

2. 平成 16 年 2 月期第 3 四半期業績の概況（平成 15 年 3 月 1 日～平成 15 年 11 月 30 日）

（1） 損益の状況 （百万円未満切捨、少数第一位未満を四捨五入）

	平成 16 年 2 月期 第 3 四半期 (当四半期)	前年同期比 増減率	平成 15 年 2 月期 第 3 四半期 (前年同四半期)	(参考) 平成 15 年 2 月期
	百万円	%	百万円	百万円
売上高	63,741	33.1	47,886	66,149
営業利益	3,664	23.2	2,973	4,233
経常利益	4,155	24.5	3,337	4,746

（2） 当四半期において当社の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象
該当する事象はありません。

3. 平成 16 年 2 月期の業績予想（平成 15 年 3 月 1 日～平成 16 年 2 月 29 日）

平成 15 年 8 月中間期の決算発表時の予想と変わりありません。

平成 16 年 2 月期の業績予想

（平成 15 年 9 月 26 日発表）

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり年間配当金	
				期 末	
	百万円	百万円	百万円	円 銭	円 銭
通 期	85,000	5,800	3,200	10 00	20 00

（参考）1 株当たり予想当期純利益(通期) 244 円 80 銭

（注）当四半期に係る数値について、公認会計士又は監査法人の監査を受けておりません。

上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。主な要因は本資料 5 ページに記載しております。

1. 平成 16 年 2 月期第 3 四半期（平成 15 年 3 月 1 日～平成 15 年 11 月 30 日）の業績

当四半期におけるわが国の経済は、平成 15 年 11 月の日銀の景気判断修正に見られるように輸出や設備投資を中心に緩やかに回復に向かっていますが、雇用者所得が下げ止まらないことなどから個人消費は未だ回復の兆しが見られません。

当社の主な営業地域である中京地区におきましては、相対的に好調な輸出産業により、雇用環境・雇用者所得ともに下げ止まりの動きが見られたものの、例年になく冷夏に加えて暖冬などの天候不順となり小売業にとっては大変厳しい状況が続きました。

このような状況の中、当四半期は、愛知県に 17 店舗、岐阜県に 10 店舗、三重県に 3 店舗、滋賀県に 4 店舗、京都府に 3 店舗、また、当社として初めて奈良県に 1 店舗を出店しました。その結果、売上高 63,741 百万円（前年同四半期比 33.1%増）、営業利益 3,664 百万円（同 23.2%増）、経常利益 4,155 百万円（同 24.5%増）となりました。

（売上高の状況）

当四半期の売上高は 63,741 百万円（前年同四半期比 33.1%増、15,855 百万円増）となりました。これは、38 店舗の新規出店（2 店舗の退店）および既存店の売上の伸び率が+10.7%と好調であったことによるものと考えております。また、来店客数も 30,520 千人（前年同四半期比 33.8%増、7,717 千人増）と順調に増加しております。

（表 1）売上高の対前年同月比の推移

（単位：％）

月	平成 15 年 2 月期			平成 16 年 2 月期		
	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月
全店	+32.1	+31.2	+29.8	+38.8	+28.7	+27.3
既存店	+13.2	+12.3	+9.5	+16.3	+9.1	+7.8

月	平成 16 年 2 月期					
	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
全店	+31.5	+26.8	+39.5	+38.6	+32.6	+35.4
既存店	+10.5	+5.1	+15.4	+11.7	+12.3	+10.9

（注）1. 上記の数字は、当社営業速報に基づいて作成されております。

2. 既存店は開店後 13 ヶ月を経過した店舗を指しております。

なお、当四半期の商品群別売上高は表 2 のとおりであり、調剤が売上高構成比 6.0%と前年同四半期比より 1.4 ポイント上昇しました。他方、ヘルスケアが同 31.4%、ホームケアが同 21.3%とそれぞれ前年同四半期より 0.6 ポイント、0.7 ポイント低下しております。これは冷夏・暖冬

などの天候不順の影響が大きかったと考えております。なお、主力のヘルス・アンド・ビューティ部門（調剤、ヘルスケア、ビューティケア）の売上高構成比は 62.9%と前年同四半期より 0.5ポイント上昇しております。

（表 2）商品群別売上高

	平成 16 年 2 月期 第 3 四半期 (当四半期)		前年同 四半期比 増減率 %	平成 15 年 2 月期 第 3 四半期 (前年同四半期)		(参考) 平成 15 年 2 月期	
	金額 百万円	構成比 %		金額 百万円	構成比 %	金額 百万円	構成比 %
調剤	3,804	6.0	73.8	2,189	4.6	3,184	4.8
ヘルスケア	20,005	31.4	30.5	15,333	32.0	21,306	32.2
ビューティケア	16,295	25.6	32.1	12,336	25.8	16,832	25.4
ホームケア	13,591	21.3	29.0	10,532	22.0	14,366	21.7
ハビーカー	4,265	6.7	28.8	3,310	6.9	4,667	7.1
その他	5,778	9.1	38.1	4,183	8.7	5,792	8.8
合計	63,741	100.0	33.1	47,886	100.0	66,149	100.0

（売上総利益の状況）

当四半期の売上総利益は 17,831 百万円（前年同四半期比 32.8%増、4,405 百万円増）売上高総利益率は 28.0%（前年同四半期比 変化なし）となりました。

（販売費および一般管理費の状況）

当四半期の販売費及び一般管理費は 14,166 百万円（前年同四半期比 35.5%増、3,714 百万円増）売上高に対する販売費及び一般管理費の比率は 22.2%と前年同四半期より 0.4ポイント上昇しました。これは都市型店舗の増加や新規出店店舗の大型化による賃借料やその他一般管理費の増加等があったことによります。なお、人件費の増加率は売上高の伸びの範囲内に留まっております。

（財政の状況）

当四半期末の資産の部合計は、36,673 百万円（前期末比 19.3%増、5,928 百万円増）負債の部合計は、17,831 百万円（前期末比 27.7%増、3,872 百万円増）資本の部合計は、18,842 百万円（前期末比 12.2%増、2,055 百万円増）となりました。

資産および負債の主な変動は、表 3 のとおりです

(表3) 資産・負債の主な変動

項 目	平成 15 年 11 月末 現在	増減額	平成 15 年 2 月期末 現在
(資 産)	百万円	百万円	百万円
商品	11,629	2,627	9,001
建物	5,749	1,289	4,459
(負 債)			
買掛金	12,202	3,370	8,832

(キャッシュ・フローの状況)

当四半期における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前期末に比較して 15 百万円増加し、9,782 百万円となりました。

営業活動の結果得られた資金は、2,931 百万円(前年同期比 14.2%増、364 百万円増)となりました。これは、税引前当期純利益に対して、主な増加要因として仕入債務の増加額が 3,370 百万円あり、減少要因としては、たな卸資産の増加額が 2,615 百万円、法人税等の支払額が 2,306 百万円あったことによります。

投資活動の結果使用した資金は、2,655 百万円(前年同期比 2,593 百万円増)となりました。これは主に、新規出店に伴う有形固定資産の取得による支出が 2,016 百万円(前年同期比 110.3%増、1,057 百万円増)、差入保証金による支出が 454 百万円あったことによります。

財務活動の結果使用した資金は 260 百万円となりました。これは、すべて配当金の支払によります。

(設備の状況)

当四半期の出退店および当四半期末の各府県別の店舗数は以下のとおりです。

	平成 16 年 2 月期第 3 四半期 (当四半期)			(参考) 平成 15 年 2 月期
	出店 店	退店 店	期末店舗数 店	期末店舗数 店
愛知県	17	2	149	134
岐阜県	10	-	28	18
三重県	3	-	21	18
滋賀県	4	-	8	4
京都府	3	-	4	1
奈良県	1	-	1	-
合計	38	2	211	175

2. 当期の見通し

当期の業績に影響すると思われる新規店舗の出店につきましては、平成 16 年 2 月期通期で 55 店舗を計画しております。現在の新規店舗の契約・建設などの準備状況から判断しますと、この計画は達成可能であると考えております。

店舗の建設は天候などの外部要因の影響を受けやすいため、出店数変動する可能性があります。現時点での通期の業績の見通しに変更はありません。

(注意事項)

業績の見通しにつきましては、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は見通しと大きく異なることがあります。

その要因のうち、主なものは以下のとおりです。

- ・ 当社営業地域の経済状況の急激な変動
- ・ 薬事法・大規模店舗立地法等の各種規制の大幅な変更
- ・ 薬剤師有資格者の労働市場における需給関係の急激な変動 など